

令和5年度 安芸高田市被災者生活サポートボランティアセンター
災害ボランティア研修報告書

報告者：原田美早紀

日時：令和5年10月11日（水）13：30～15：30

場所：安芸高田市民文化センター（クリスタルアージュ）
4階 小ホール

参加者：34名

講師：広島県社会福祉協議会 地域福祉課 主任 松井寛泰 氏

NPO法人 SKY協働センター 代表 大迫雅俊 氏

安芸高田市社協：11名 合計45名

〔開会〕 13：30

○会長挨拶



〔活動事例紹介〕 13：40

発災時における地域を基盤とした被災者支援活動

広島県社会福祉協議会 地域福祉課 主任 松井寛泰 氏

☆内容

- ・被災者生活サポート（災害）ボランティアセンターとは
- ・災害ボランティア活動の三原則（災害ボランティア活動に携わるすべてがもつべき共通認識）
- ・災害ボランティアセンターの変遷
- ・なぜ社協が災害ボランティアセンターを設置・運営するのか
- ・広島県被災者生活サポートボラネットの連携・協働イメージ
- ・地域協働型災害ボランティアセンターの必要性
- ・災害ボランティア事前登録システム実績

- ・地域の関係者で協力して被災者の困りごとを掴む
- ・地域組織×重機プロボノ×社協で連携する
- ・地域の多様な関係者でともに災害VCをつくる
- ・ネットワークを活かした多様な支援展開



ボランティアを受入れる『受援力』の大切さ
広島県坂町の災害復旧・復興活動事例紹介

NPO法人 SKY協働センター 代表 大迫雅俊 氏

☆内容

- ・平成30年西日本豪雨災害における坂町での災害ボランティア活動の事例紹介
～コミュニティマッチングによる運営と被災地域への配慮～
- ・令和3年8月豪雨災害における安芸高田市などでの災害ボランティア活動の事例紹介
～ボランティアと被災者とのつなぎ役、信頼関係の構築～
- ・SKY協働センターの設立と災害公営住宅での活動紹介
- ・復旧時の受援力を復興力につなげる受援のありかたとは？



〔グループワーク〕 14：40

- ・グループの中で進行役と発表者を決める
- ・今日の講義を聞いた感想や質問、自分たちで何ができるか（自分の立場で何ができるか）をグループで話し合う
- ・グループで出した意見を模造紙にまとめる



〔全体共有、まとめ〕 15：10

☆Aグループ

今日の講義を聞いた感想や質問

- ・コミュニティマッチング方式。ボラセンの拠点運営を自治会が主体でやった、災害が突然起きての対応、これは日頃の勉強が素晴らしいと思う。
- ・安芸高田市も社協の災害ボランティアセンターがあり、いざという時心強い。
- ・改めて社協組織のネットワークの重要性が理解できた。
- ・マンパワーと重機の力をうまく活用して、効率的な復旧活動を望む。

自分たちでなにができるか（自分の立場で何ができるか）

- ・食料の提供
- ・機械の提供
- ・資材の運搬
- ・老人身障者の確認
- ・災害時に避難所として家を使ってもらえる。（我が家が被災していなければ）
- ・近隣住民の情報収集、提供（災害弱者）
- ・何が必要か被災者に聞いて届ける。
- ・被災者によりそい声掛け手伝いをする。
- ・地元の地形、家族等がわかるのでボランティアの世話役。
- ・社協との密な連絡し、又報告していく。（報告、連絡、相談）

- ・吉田町ボランティアセンターで活動しており、災害時は会員に連絡をして災害ボランティアに参加している。



☆Bグループ

今日の講義を聞いた感想や質問

- ・ R3 年災害 他県、他市町からのボランティア（早く活動の拠点ができること）の来市にボラセン立上げがまにあってなかった。
- ・ どこまでボランティアに頼んだらいいか判断しづらい。
- ・ 自分で直したりした時の工事費など、後で公費で出してもらえるかなど、情報を地域で共有していれば good。
- ・ 災害ゴミの運搬など、どこまでボラに頼めるか。

自分たちでなにができるか（自分の立場で何ができるか）

- ・ 自律的にうごける人々（重機、エアコン修理）、地域の集会所を提供。
- ・ 重機、オペレーターなど地域で提供できる資機材、人材の情報共有。
- ・ 災害ゴミ→とりあえず地域の中に集積。



☆Cグループ

今日の講義を聞いた感想や質問

- ・地域の大切さ。
- ・地域のコミュニケーションの大切さ。
- ・コロナで行事がなくなり、それに慣れてしまった。
- ・仕事をやめたあとの50代60代の参加を促すのは、どうしたらよいか。

自分たちでなにができるか（自分の立場で何ができるか）

- ・常日ごろ地域の人を気にかける。
- ・直接顔を見ての近所づきあい。
- ・助けてを言える関係づくり。
- ・困ったことが言える関係づくり。



☆Dグループ

今日の講義を聞いた感想や質問

- ・美土里町はこれまで、大きな災害がないので、災害に対する意識がひとりひとりうすいと思っています。しかし、災害はいつ起こるかわかりません。坂町の活動を少し参考にさせてもらえればと思いました。
- ・坂町の住民の方の力と、協力体制のすごさは、命を守る事を第1に考えられ、とても素晴らしい住民の方々だと思いました。
- ・実際に災害にあって、色々と組織を立ちあげ、活動されている生の声をきけたのでよかった。
- ・住民の方々の信頼関係のすごさ、坂町は自分達で出来る事を実行されていて、素晴らしいと思いました。

自分たちでなにができるか（自分の立場で何ができるか）

- ・炊き出し、困りごと（パイプ役）を聞く、必要物品のニーズと配布、足浴、ボランティアセンターの受付。

- ・自分たちの地域にあった自主防災が、少しでも前に進めばと思う。あまり大きな事から始めるのではなく、小さな事からの積み重ねで。
- ・力仕事は出来ないが、話を聞いたり、昔の遊びをしたり、料理をしたりは出来ます。



☆Eグループ

今日の講義を聞いた感想や質問

- ・地域住民の絆の大切さ。
- ・災害の少ない地域でも、何があるかわからないので、日頃からの付き合いを大切に、いざという時は、となり近所が一番の救いになるのでは？

自分たちでなにができるか（自分の立場で何ができるか）

- ・声掛け、話し相手
- ・自主防災組織における、要支援者に対する支援員の明確化。
- ・持ち出し物を準備しておく。
- ・ハザードマップ、防災マップの確認。避難経路の確認。



☆Fグループ

今日の講義を聞いた感想や質問

- ・坂町の17地区全てに住民福祉協議会があるのですか？振興会の組織はないのですか？
- ・自宅に用意（備えて）しておいた方がよいものは？
- ・災害に向きあわない人たちを向きあわす方法。
- ・災害が発生した時のボランティアの有り方がわかった。
- ・若い人達はどう感じているのかな。今日集まっているのはかなり高齢者が多い様に思います。
- ・日頃からの地域住民とのつながりが大切。
- ・気軽に声をかけ合える関係を築く。
- ・ボランティアは、してあげるではなく、必要な事をさせていただく。
- ・ボランティアと被災者とのつなぎ役の大切さ。
- ・被災者に寄り添う大切さ。幅広い視点で見ることにより、何を求めているのかを、何を手伝えるのかを考えていく難しさを感じる。
- ・災害はないだろうという危機感が自分にないと感じました。
- ・もしものときの備え（スコープなど）を考えておく必要があると感じました。
- ・自宅でも、職場でも、「もしも…」「～たら」という意識で、災害に備えていないと感じました。

自分たちでなにができるか（自分の立場で何ができるか）

- ・社会福祉協議会のボランティア参加。
- ・ご高齢者の緊急受入れ（避難）
- ・甲田町に小学校区が3つあります。小学校区のまとまりは良いので、皆が集まれる場所作りをしたい。



☆Gグループ

被災者支援

VC→活動が充実
地域→すぐに動くことができない



災害時

言いつぎ
避難のしくみづくり



災害死を経験して
避難場所が危険な所にある。(水没)

避難
介護



介護者の安全な避難のしかた



- ・声かけ
- ・体調チェック

災害対策本部



職員配置は1か所のみ

みらい



川のほとり
道路の寸断

要介護者は生活ができない
(食事・入浴他)

ボランティア受け入れ

- ・ VCへの連絡
- ・ 地域振興会=自主防災組織
- ・ 区長の自主活動
- ・ 各組織との連携
- ・ 高齢者が多い…実働できる若者が少ない

避難は可能

休憩場所の確保
(食事・トイレ)

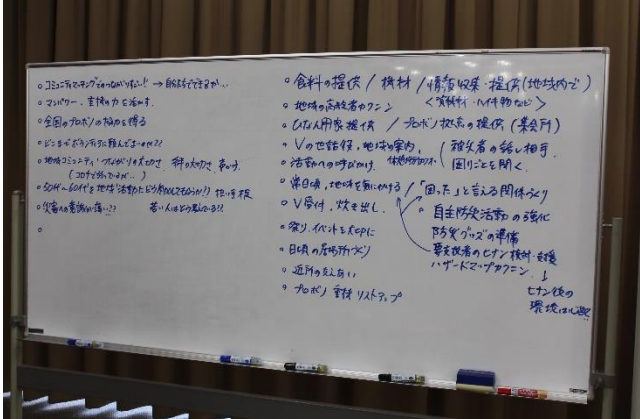
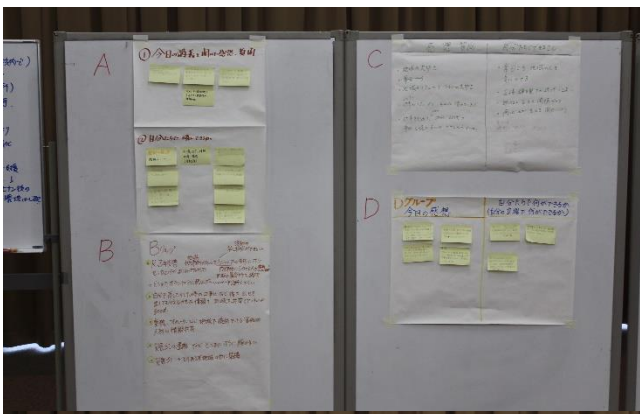
- ・ 重機の確保
+
オペレーター

近所の助け合い

リストアップ…個人で頼むケースが多い



☆まとめ



〔閉会〕 15 : 30